

令和7年度

八戸工業大学大学院  
工学研究科

博士前期課程	機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻
博士後期課程	機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻

## 学生募集要項

第1次選抜および第2次選抜

八戸工業大学

志願票に記載された情報、その他出願に際して提出された情報は、入学者選抜および合格者への入学手続に関する業務以外の用途には使用しません。

令和7年度

# 博士前期課程学生募集要項

機械・生物化学工学専攻

電子電気・情報工学専攻

社会基盤工学専攻



## 工学研究科博士前期課程学生募集要項

### 1. 募集専攻および募集人員

研究科	課程	専攻名	募集人員
工学研究科	博士前期課程	機械・生物化学工学専攻	5名
		電子電気・情報工学専攻	5名
		社会基盤工学専攻	5名

※募集人員には、「推薦入学」、「特別選抜（社会人および外国人）」による若干名を含みます。

### 2. 入学者の選抜種別

#### (1) 第1次選抜

令和7年度八戸工業大学大学院工学研究科博士前期課程の第1次選抜は、「一般選抜」、「推薦入学」、「特別選抜（社会人および外国人）」の方法で行います。

#### (2) 第2次選抜

令和7年度八戸工業大学大学院工学研究科博士前期課程の第2次選抜は、「一般選抜」、「特別選抜（社会人および外国人）」の方法で行います。

ただし、第1次選抜にて定員を充足した場合には、第2次選抜を実施しないことがあります。

### 3. 出願資格

#### (1) 一般選抜および推薦入学

次の各号の一に該当する者

- 一. 大学を卒業した者および令和7年3月までに卒業見込みの者
- 二. 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和7年3月までに授与される見込みの者
- 三. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月までに修了見込みの者
- 四. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月までに修了見込みの者
- 五. 専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および令和7年3月までに修了見込みの者
- 六. 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- 七. 令和7年3月末までに、大学における在学期間が3年以上となる者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であって、本大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めた者
- 八. 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学したものであって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- 九. 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
- 十. その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

※ 前頁出願資格の二または四から十で出願する場合は、事前にその資格審査が必要となりますので予め教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）へ問い合わせてください。

なお、推薦入学での出願を希望する者は、学業成績が優秀で人物・健康状態とも良好であり、出身大学長（学部長）が推薦する者で、合格した場合は必ず入学を確約できる者としてします。

## （２）特別選抜（社会人および外国人）

社会人および外国人で、次の各号の一に該当する者

- 一. 大学を卒業した者
- 二. 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- 三. 外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月までに修了見込みの者
- 四. 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- 五. その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

※ 出願にあたっては、事前にその資格審査が必要となりますので、出願期間の2ヶ月前までに教務担当へ問い合わせてください。

なお、社会人は、原則として出願時までには社会人経験（家事・家業従事者を含む）を2年以上有する者としてします。

## 4. 出願書類

### （１）一般選抜および推薦入学

出 願 書 類	注 意 事 項
入学志願票	・ 本大学院所定の入学志願票に必要事項を記入したもの
卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書	・ 最終出身校所定のもの ・ 出願資格二で出願する場合は、学位授与機構の発行する学位授与証明書、若しくは出身短期大学長または高等専門学校長の学位授与申請（予定）証明書
成績証明書	・ 最終出身校所定のもの
志望理由書	・ 本大学院所定の志望理由書に必要事項を記入したもの
写真票・受験票・会計原簿 (写真※2枚)	・ 本大学院所定の写真票および受験票に同一の写真をそれぞれ貼付のこと ※写真は、大きさ縦4cm×横3cm、提出時の3ヶ月以内に撮影した上半身正面、無帽、無背景のもの
その他	《推薦入学で出願する者》 ・ 推薦書：本大学院所定の推薦書に、出身大学長または学部長が記載したもの ※八戸工業大学出身者は、学科長が記載した推薦書を提出 ※一般選抜志願者は、提出不要

※ 出願資格の二または四から十で出願する場合は、出願書類について、事前に教務担当に問い合わせてください。

※ 健康診断書の提出を求める場合があります。

## (2) 特別選抜（社会人および外国人）

出願書類	注意事項
入学志願票	・本大学院所定の入学志願票に必要事項を記入したもの
卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書	・最終出身校所定のもの ・出願資格二で出願する場合は、学位授与機構の発行する学位授与証明書、若しくは出身短期大学長または高等専門学校長の学位授与申請（予定）証明書
成績証明書	・最終出身校所定のもの
志望理由書	・本大学院所定の志望理由書に必要事項を記入したもの
写真票・受験票・会計原簿 （写真※2枚）	・本大学院所定の写真票および受験票に同一の写真をそれぞれ貼付のこと ※写真は、大きさ縦4cm×横3cm、提出時の3ヶ月以内に撮影した上半身正面、無帽、無背景のもの
履歴書	・市販の履歴書用紙を使用のこと
その他	・外国籍の者は、外国人登録済み証明書または在留カードの写し（両面）

※ 出願資格の二、四、五で出願する場合は、出願書類について、事前に教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）に問い合わせてください。

※ 健康診断書の提出を求める場合があります。

## 5. 出願手続

(1) 「4. 出願書類」を一括取り揃え、**入学検定料 30,000 円**（郵送で提出する場合は普通郵便為替にし、受取人指定欄等には記入しない）を添えて教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）に提出してください。

窓口受付時間：午前9時～午後5時（土曜日、日曜日、祝日、大学休業日を除く）

(2) 入学願書を郵送する場合は、下記宛に簡易書留にて送付してください。

書類郵送先：〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1

八戸工業大学 教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）

TEL 0178-25-8025（直通）

(3) 受理した出願書類・入学検定料は、理由のいかんにかかわらず返還いたしません。

(4) 入学願書を提出し、受験票が試験日の2日前までに届かない場合は、教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）へ電話連絡してください。

## 6. 出願期間

### (1) 第1次選抜

- ・推薦型選抜  
令和6年6月3日（月）～ 6月14日（金）（締切日必着）
- ・一般選抜および特別選抜  
令和6年7月22日（月）～ 8月2日（金）（締切日必着）

### (2) 第2次選抜

- ・一般選抜および特別選抜  
令和7年1月14日（火）～ 1月29日（水）（締切日必着）

## 7. 選考方法

### (1) 推薦型選抜

- ・書類審査および面接試問の結果を総合して行います。

### (2) 一般選抜

- ・書類審査、筆答試験および面接試問の結果を総合して行います。

### (3) 特別選抜

- ・書類審査、小論文および面接試問の結果を総合して行います。  
※ 小論文と面接試問については、学術論文等の研究業績の提出をもって代えることができます。

## 8. 試験日時および試験科目

### 第1次選抜

区分	試験日	時間	試験科目等
推薦型選抜	令和6年7月2日（火）	10：00～12：00	面接試問
一般選抜	令和6年8月22日（木）	10：00～12：30	筆記試験（専門）
		13：30～14：30	〃（外国語）
	令和6年8月23日（金）	10：00～12：00	面接試問
特別選抜	令和6年8月23日（金）	10：00～12：00	面接試問・小論文

### 第2次選抜

区分	試験日	時間	試験科目等
一般選抜	令和7年2月17日（月）	10：00～12：30	筆記試験（専門）
		13：30～14：30	〃（外国語）
	令和7年2月18日（火）	10：00～12：00	面接試問
特別選抜	令和7年2月18日（火）	10：00～12：00	面接試問・小論文

一般選抜における、筆記試験の科目は次のとおりです。

専攻	専門科目	外国語
機械・生物化学 工学専攻	科目群：材料力学、機械力学、流体力学、熱力学、伝熱工学、 生化学、微生物学、化学工学量論、分析化学 (電気回路、計算機システム工学、プログラム設計、 制御工学)	英語
	上記科目群より3科目を選択。 括弧内の科目からは最大1科目選択。 ※括弧内の科目を選択する場合は出願時に事前登録制とする。	
電子電気・情報 工学専攻	科目群：電磁気学、電気回路、電子回路、計算機システム工学、 プログラム設計、制御工学、情報メディア工学	英語
	上記科目群より3科目を選択	
社会基盤 工学専攻	科目群：構造力学、水理学、地盤工学、環境・衛生工学、 コンクリート工学、建設材料学、都市計画	英語
	上記科目群より3科目を選択	

## 9. 試験場

八戸工業大学

※集合日時・場所は、受験票送付時に通知します。

## 10. 合格発表

受験者本人に入学試験結果通知書を送付します。

### (1) 第1次選抜

合格発表日	推薦型選抜	令和6年7月19日(金)
	一般選抜	令和6年9月27日(金)
	特別選抜	令和6年9月27日(金)

### (2) 第2次選抜

合格発表日	一般選抜	令和7年2月27日(木)
	特別選抜	令和7年2月27日(木)

## 11. 入学手続および入学許可

### (1) 第1次選抜

入学手続期限	推薦型選抜	令和6年8月7日(水)	(当日消印有効)
	一般選抜	令和6年10月11日(金)	(当日消印有効)
	特別選抜	令和6年10月11日(金)	(当日消印有効)

### (2) 第2次選抜

入学手続期限	一般選抜	令和7年3月7日(金)	(当日消印有効)
	特別選抜	令和7年3月7日(金)	(当日消印有効)

書類提出先 〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1  
八戸工業大学 教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)  
TEL 0178-25-8025(直通)

※ 合格者には、入学試験結果通知書とともに入学手続書類を送付します。

※ 期限内に入学手続を完了しない場合は、入学を許可しません。

## 12. 学納金について

### (1) 令和7年度入学者学納金

項目	本学卒業者	本学以外からの入学者
入学金	—	250,000円
授業料	992,000円	992,000円
学友会費(委託徴収)	8,000円	8,000円
合計	1,000,000円	1,250,000円

※入学金は、入学手続時のみ納入です。

※入学に関する寄付金・学債は一切ありません。

※授業料は、年2回の分納(Ⅱ期は10月10日)となります。

### (2) 学納金納入方法

#### 1) 第1次選抜

納入期限	項目	摘要
令和6年12月25日	入学金 Ⅰ期授業料 学友会費	Ⅰ期、Ⅱ期授業料は、それぞれ授業料年額の半額です。
令和7年10月10日	Ⅱ期授業料	

#### 2) 第2次選抜

納入期限	項目	摘要
各選抜種別 入学手続期限	入学金 Ⅰ期授業料 学友会費	Ⅰ期、Ⅱ期授業料は、それぞれ授業料年額の半額です。
令和7年10月10日	Ⅱ期授業料	

## 13. 問い合わせ先

本募集要項に関する問い合わせは、下記までご連絡ください。

〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1  
八戸工業大学 教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)  
TEL 0178-25-8025(直通) FAX 0178-25-3827

令和7年度

# 博士後期課程学生募集要項

機械・生物化学工学専攻

電子電気・情報工学専攻

社会基盤工学専攻



## 工学研究科博士後期課程学生募集要項

### 1. 募集専攻および募集人員

研究科	課程	専攻名	募集人員
工学研究科	博士後期課程	機械・生物化学工学専攻	2名
		電子電気・情報工学専攻	2名
		社会基盤工学専攻	2名

※募集人員には、「特別選抜（社会人および外国人）」による若干名を含みます。

### 2. 入学者の選抜種別

#### (1) 第1次選抜

令和7年度八戸工業大学大学院工学研究科博士後期課程の第1次選抜は、「一般選抜」、「特別選抜（社会人および外国人）」の方法で行います。

#### (2) 第2次選抜

令和7年度八戸工業大学大学院工学研究科博士後期課程の第2次選抜は、「一般選抜」、「特別選抜（社会人および外国人）」の方法で行います。

ただし、第1次選抜にて定員を充足した場合には、第2次選抜を実施しないことがあります。

### 3. 出願資格

#### (1) 一般選抜

次の各号の一に該当する者

- 一. 修士の学位を有する者および令和7年3月までに修士の学位を取得見込みの者
- 二. 外国の大学において、修士の学位に相当する学位を授与された者および授与見込みの者
- 三. 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- 四. 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者
- 五. その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

※ 上記出願資格の二から五で出願する場合は、事前にその資格審査が必要となりますので、予め教務担当へ問い合わせてください。

## (2) 特別選抜（社会人および外国人）

社会人および外国人で、次の各号の一に該当する者

- 一. 修士の学位を有する者および令和7年3月までに修士の学位を取得見込みの者
- 二. 外国の大学において、修士の学位に相当する学位を授与された者および授与見込みの者
- 三. 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- 四. 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- 五. その他本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

※ 出願にあたっては、事前にその資格審査が必要となりますので、出願期間の2ヶ月前までに教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）へ問い合わせてください。なお、社会人は、原則として出願時までに社会人経験（家事・家業従事者を含む）を2年以上有するものとします。

## 4. 出願書類

### (1) 一般選抜

出 願 書 類	注 意 事 項
入学志願票	・ 本大学院所定の入学志願票に必要事項を記入したもの
卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書	・ 最終出身校所定のもの
成績証明書	・ 最終出身校所定のもの
志望理由書	・ 本大学院所定の志望理由書に必要事項を記入したもの
写真票・受験票・会計原簿 (写真※2枚)	・ 本大学院所定の写真票および受験票に同一の写真をそれぞれ貼付のこと ※写真は、大きさ縦4cm×横3cm、提出時の3ヶ月以内に撮影した上半身正面、無帽、無背景のもの
研究内容説明資料	・ これまでの研究内容を説明した資料 (発表論文などの写し、あるいはA4用紙に任意の様式にて記入したもの5枚以内)

※ 出願資格の三、四、五で出願する場合は、出願書類について、事前に教務担当に問い合わせてください。

※ 健康診断書の提出を求める場合があります。

## (2) 特別選抜（社会人および外国人）

出 願 書 類	注 意 事 項
入学志願票	・本大学院所定の入学志願票に必要事項を記入したもの
卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書	・最終出身校所定のもの
成績証明書	・最終出身校所定のもの
志望理由書	・本大学院所定の志望理由書に必要事項を記入したもの
写真票・受験票・会計原簿 （写真※2枚）	・本大学院所定の写真票および受験票に同一の写真をそれぞれ貼付のこと ※写真は、大きさ縦4cm×横3cm、提出時の3ヶ月以内に撮影した上半身正面、無帽、無背景のもの
履歴書	・市販の履歴書用紙を使用のこと
その他	・外国籍の者は、外国人登録済み証明書または在留カードの写し（両面）
研究内容説明資料	・これまでの研究内容を説明した資料 （発表論文などの写し、あるいはA4用紙に任意の様式にて記入したもの5枚以内）

※ 出願資格の三、四、五で出願する場合は、出願書類について、事前に教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）に問い合わせてください。

※ 健康診断書の提出を求める場合があります。

## 5. 出願手続

(1) 「4. 出願書類」を一括取り揃え、**入学検定料 30,000 円**（郵送で提出する場合は普通郵便為替にし、受取人指定欄等には記入しない）を添えて教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）に提出してください。

窓口受付時間：午前9時～午後5時（土曜日、日曜日、祝日、大学休業日を除く）

(2) 入学願書を郵送する場合は、下記宛に簡易書留にて送付してください。

書類郵送先：〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1

八戸工業大学 教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）

TEL 0178-25-8025（直通）

(3) 受理した出願書類・入学検定料は、理由のいかんにかかわらず返還いたしません。

(4) 入学願書を提出し、受験票が試験日の2日前までに届かない場合は、教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）へ電話連絡してください。

## 6. 出願期間

### (1) 第1次選抜

- ・一般選抜および特別選抜  
令和6年7月22日（月）～8月2日（金）（締切日必着）

### (2) 第2次選抜

- ・一般選抜および特別選抜  
令和7年1月14日（火）～1月29日（水）（締切日必着）

## 7. 選考方法

### (1) 一般選抜

- ・書類審査および面接試問の結果を総合して行います。

### (2) 特別選抜

- ・書類審査、小論文および面接試問の結果を総合して行います。  
※ 小論文と面接試問については、学術論文等の研究業績の提出をもって代えることができます。

## 8. 試験日時および試験科目

### 第1次選抜

区分	試験日	時間	試験科目等
一般選抜	令和6年8月23日（金）	10：00～12：00	面接試問
特別選抜	令和6年8月23日（金）	10：00～12：00	面接試問・小論文

### 第2次選抜

区分	試験日	時間	試験科目等
一般選抜	令和7年2月18日（火）	10：00～12：00	面接試問
特別選抜	令和7年2月18日（火）	10：00～12：00	面接試問・小論文

## 9. 試験場

八戸工業大学

- ※ 集合日時・場所は、受験票送付時に通知します。

## 10. 合格発表

受験者本人に入学試験結果通知書を送付します。

### (1) 第1次選抜

合格発表日 一般選抜 令和6年9月27日（金）  
特別選抜 令和6年9月27日（金）

### (2) 第2次選抜

合格発表日 一般選抜 令和7年2月27日（木）  
特別選抜 令和7年2月27日（木）

## 11. 入学手続および入学許可

### (1) 第1次選抜

入学手続期限 一般選抜 令和6年10月11日(金) (当日消印有効)  
特別選抜 令和6年10月11日(金) (当日消印有効)

### (2) 第2次選抜

入学手続期限 一般選抜 令和7年3月7日(金) (当日消印有効)  
特別選抜 令和7年3月7日(金) (当日消印有効)

書類提出先 〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1  
八戸工業大学 教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)  
TEL 0178-25-8025(直通)

※ 合格者には、入学試験結果通知書とともに入学手続書類を送付します。

※ 期限内に入学手続を完了しない場合は、入学を許可しません。

## 12. 学納金について

### (1) 令和7年度入学者学納金

項目	本大学院博士前期課程 および修士課程修了者	本大学院博士前期課程および修士課程以外の修了者	
		本学学部出身者	本学学部以外の出身者
入学金	—	—	250,000円
授業料	992,000円	992,000円	992,000円
学友会費	8,000円	8,000円	8,000円
合計	1,000,000円	1,000,000円	1,250,000円

※入学金は、入学手続時のみ納入です。

※入学に関する寄付金・学債は一切ありません。

※授業料は、年2回の分納(Ⅱ期は10月10日)となります。

### (2) 学納金納入方法

#### 1) 第1次選抜

納入期限	項目	摘要
令和6年12月25日	入学金 Ⅰ期授業料 学友会費	Ⅰ期、Ⅱ期授業料は、それぞれ 授業料年額の半額です。
令和7年10月10日	Ⅱ期授業料	

#### 2) 第2次選抜

納入期限	項目	摘要
各選抜種別 入学手続期限	入学金 Ⅰ期授業料 学友会費	Ⅰ期、Ⅱ期授業料は、それぞれ 授業料年額の半額です。
令和7年10月10日	Ⅱ期授業料	

### 13. 問い合わせ先

本募集要項に関する問い合わせは、下記あてご連絡ください。

〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1

八戸工業大学 教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）

TEL 0178-25-8025（直通） FAX 0178-25-3827

# 大学院工学研究科の概要

機械・生物化学工学専攻

電子電気・情報工学専攻

社会基盤工学専攻

# 八戸工業大学大学院 工学研究科

## □学校法人八戸工業大学 建学の精神

本法人は、その経営指針と基本的な教育方針として、人格、徳性の涵養並びに知性の練磨を象徴的に表す『正己以格物』(己を正し以て物に格る)を不易の綱領と定め、建学の精神としています。

この言葉は、儒教の根本精神を表した四書五経の一つ「大学」に拠るもので、物の道理をよく見極め広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを、深く認識し、高い倫理性をもって行動することの重要性を説いているものです。

本法人は、この建学の精神に基づき、社会の負託と時代の要請に応えることを要諦とし、創造的、個性的な自己思考能力を有する有為の人材を養成しています。

## □教育理念

上記の建学の精神に基づき、本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。この理念は、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。

## □使命・目的（教育研究上の目的）

上記の教育理念に基づき、本大学院は、「学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めるとともに、学術研究を通して深い教養と豊かな人間性を涵養し、広く文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。(大学院学則第1条)

これに則って、研究科全体の教育研究上の目的を次のように定めています。(大学院学則第6条)

### 博士前期課程

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な能力およびその基礎となる学識を養うこと

### 博士後期課程

専攻分野について研究者として自立して研究活動を行いまたはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うこと

さらに、この目的に基づき、各専攻の教育研究上の目的を具体的に定めています。(大学院学則第6条2項、学生要覧等で明示・公表、詳細略)

## □人材育成目標

### (a) 専門基礎力の充実した人材の育成

エンジニアリング・サイエンスに準拠したカリキュラムの構成、すなわちエネルギー、新素材、半導体、生物化学材料、建設材料などの基礎物性に関する教育、数学的解析能力、数値シミュレーション、数値・画像情報解析に関する開発能力の養成、および外国文献の読解力と表現力の養成により専門基礎力の充実した人材を育成する。

### (b) 先端技術分野への応用展開能力を持つ人材の育成

先端技術に関する科目および先端的な研究テーマを設けると共に、応用数学、応用物理、ならびに応用化学の工業基礎に関する専門基盤科目を設けるなどのカリキュラムの編成により、自然科学に関する深い理解力を養成し、工学基礎力を基盤とする工業技術さらには先端技術への応用展開能力を持つ人材の育成を図る。

### (c) 総合的な視野を持つ人材の育成

今後の高度技術者は特定技術分野にのみ限定された視点ではなく、人間を中心に捉えた総合的な視野を持つ必要がある。すなわち、従来の要素技術や解析指向から総合化ならびにシステム重視への転換である。このため、各専門分野における教育は無論のこと、これまで異質と見られていた異分野間の幅広い協力と新しい発想に基づく複数あるいは境界領域を総合するシステム思考を可能とするカリキュラム編成により、総合的な視野を持つ人材の育成を図る。

## □アドミッション・ポリシー

本学の教育理念「良き技術は、良き人格から生まれる」を理解し、博士前期課程にあっては「研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要能力およびその基礎となる学識を養う」、博士後期課程にあっては「研究者として自立して研究活動を行いまたはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養う」という教育研究上の目的に強い関心を払い、本大学院において自らを向上させようとする意欲あふれる学生の入学を歓迎します。

## □カリキュラム・ポリシー

本大学院の使命・目的、研究科および各専攻の教育研究上の目的を達成するよう、人材育成目標を定めています。すなわち、専門基礎力の充実した人材、先端技術分野への応用展開能力を持つ人材および総合的な視野を持つ人材の育成です。これに基づいて、各専攻の教育研究の目的、人材養成の目的、部門構成、研究テーマおよび教育課程表を定め、カリキュラムを実施しています。(学生要覧等で明示・公表)

## □ディプロマ・ポリシー

### ■博士前期課程

八戸工業大学は、本学大学院の所定の修了要件（大学院学則第32条）を満たし、かつ次の資質・能力を身につけたと判定された者に、修士（工学）の学位を授与します。

- 1 豊かな人間性  
知的創造活動（学術研究）で培った、深い教養を携えた豊かな人間性。
- 2 知識・技能  
専門基礎力、並びに高度の専門性を有する職業等に必要とされる高度な応用展開力。
- 3 思考力・判断力等の能力  
グローバルな視野で物事を考える姿勢をもった、社会の変化に対応できる柔軟な思考力、総合的な判断力。

（博士前期課程修了要件）

第32条 博士前期課程の修了要件は、本大学院研究科の博士前期課程に2年以上在学し、専攻科目について主要科目（特別演習及び特別研究）14単位を含み30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、課程の目的に応じ、学位論文又は特定の課題についての研究成果を提出して、その審査及び最終試験に合格したことをもって課程を修了したものとする。ただし、在学期間に関しては、本大学院工学研究科委員会が優れた業績をあげた者と認めるときは、本大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の場合において、委員会が課程の目的に応じ適当と認めるときは、次の二つの事項からなる「博士論文研究基礎力審査」をもって、学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に代えることができる。
  - 一 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養についての試験
  - 二 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力についての審査

### ■博士後期課程

八戸工業大学は、本学大学院の所定の修了要件（大学院学則第33条）を満たし、かつ次の資質・能力を身につけたと判定された者に、博士（工学）の学位を授与します。

- 1 豊かな人間性  
知的創造活動（学術研究）で培った、深い教養を携えた豊かな人間性。
- 2 知識・技能  
専門基礎力、並びに研究者もしくは高度の専門性を有する職業等に必要とされる卓越した高度応用展開能力。
- 3 思考力・判断力等の能力  
グローバルな視野で物事を考える姿勢をもった、社会の変化に対応できる柔軟な思考力、総合的な判断力。

（博士後期課程修了要件）

第33条 博士後期課程の修了要件は、本大学院研究科の博士後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格したことをもって課程を修了したものとする。ただし、在学期間に関しては、本大学院工学研究科委員会が優れた研究業績をあげた者と認めるときは、1年（2年未満の在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者）にあっては、当該在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。

## 1. 機械・生物化学工学専攻

### [概要]

本専攻は、科学技術の高度システム化および複合化に対応すべく、工学部の機械工学科、生命環境科学科の機械工学系、化学工学系分野および生物・食品分野を有機的に総合した学際的なシステム工学として設置される。本専攻は電子電気・情報工学専攻、社会基盤工学専攻とも有機的な交流を行いつつ、機械工学および生物化学工学に関する高度な専門的学識と基礎的研究能力はもとより、情報科学も含む学際的なシステム工学について幅広い教育と研究を行うことを目標とするものである。

基礎素材型産業を中心に発展して来た地域産業は、近年、産業構造の変化により高付加価値型の高度技術産業への転換が急務となっている。このため、地域産業の高度化あるいは高付加価値化をめざした新素材の開発研究、超精密加工の研究、機能性食品の開発および高度産業におけるメカトロニクスやバイオに関する研究開発などの学際的な分野を含むシステム技術の開発が要請されている。

### [教育研究の目的]

本専攻は、機械・生物化学工学に関わる移動現象、計測システム、材料加工学および物質変換工学の4部門とこれを包括した学際的で高度な専門知識を用いて、社会に貢献することを教育研究の目的とする。

### [人材養成の目的]

機械・生物化学工学専攻は、機械および生物化学工学領域の基礎力と専門知識を修得し、高度かつ学際的なシステム技術の研究・開発並びに複合化した利用技術への応用展開に対応できる広い視野を持った創造性豊かで問題解決能力に優れた技術者、研究者を養成することを目的とする。

### [部門構成]

本専攻は、移動現象工学、計測システム工学、材料加工学、および物質変換工学の4部門により構成されている。

#### (a) 移動現象工学（熱、運動量、物質の移動・制御とエネルギー変換）

本部門は、機械・化学システムの中で、熱、運動量、および物質の移動とその制御に関する理論と解析法の探求と、これらに基づくシステムの解析・設計法、およびシステム機器の開発などについて総合的に修得させるためのものである。

#### (b) 計測システム工学（振動、機械力学、計測と数値情報によるシステム制御、環境計測）

本部門は、機械・化学システムの特性解析と動的システムの構築に必要な構成要素の機能設計、性能評価、システムシミュレーション、自動制御技術、光応用測定技術、および環境情報に関する機器分析、数値解析法などの探求と、それらの工業的な応用について総合的に修得させるためのものである。

(c) 材料加工学（材料、材料力学、塑性加工、精密加工、新素材加工）

本部門は、システム構成要素の主たる加工法である塑性加工と切削加工の理論、および物性制御による材料の高性能・高機能化に関する理論の探求と、それらの工業的な応用について総合的に修得させるためのものである。

(d) 物質変換工学（化学的・生物化学的な物質変換のシステム工学）

本部門は、システム内で生じる化学的または生物化学的反応に基づく物質の変換・加工に関する理論とそのプロセス構成法、食品工学的な応用と言える機能性物質の探求、および機器・装置の最新の解析・設計法について総合的に修得させるためのものである。

以上の4部門で構成され、学際的およびシステム工学的な思考による情報化および高付加価値製品化時代にふさわしい総合的な研究と教育を可能とするものとなっている。さらに、システム工学の構築とその適用には、高度な工学的基礎知識が不可欠となる。このため、博士前期課程においては、専門基盤科目を設け、上記の4部門に関連する応用数学、応用物理、および応用化学の最新知識を必要に応じて履修させる。

### 【研究テーマ】

#### 移動現象工学

- ・噴霧塗装における液滴の帯電に関する研究
- ・新作動液を用いた高性能冷凍技術に関する研究
- ・凝縮層表面上の燃え拡がりにおよぼす重力の影響に関する研究

#### 計測システム工学

- ・ものづくりに役立つコンピュータシミュレーションの研究

#### 材料加工学

- ・カーボンナノチューブ複合材の強度に関する研究
- ・高出力レーザーを利用したミクロな機械的性質の研究
- ・原子力用耐熱構造材料の強度特性に関する研究

#### 物質変換工学

- ・マイクロ波、超音波を用いたCO<sub>2</sub>の資源化および回収に関する研究
- ・マイクロバブルの発生制御と物性値変化
- ・微生物の低温適応を利用した物質生産に関する研究
- ・ポリフェノール化合物の酸化分解に関する研究
- ・魚類卵膜形成過程の分子生物学的・免疫生化学的研究
- ・海洋生態系を主対象とした炭素などの物質循環・生態系機能の研究
- ・陸上植物の繁殖および群落動態に関する生態学的研究

## 2. 電子電気・情報工学専攻

### 【概要】

本専攻は、工学部の電気電子工学科およびシステム情報工学科を基盤に設置されている。本専攻の教育・研究の目的は、電子電気・情報工学に関する基礎から高度な専門的知識と研究能力を修得するとともに、知能工学、宇宙工学も含む学際的な分野について幅広い研究開発を積極的に行うことのできる人材を育成することである。本専攻は機械・生物化学工学専攻、社会基盤工学専攻とも、相互の情報交換や研究討論、共同研究など有機的な連携を持っている。

電子電気・情報工学は、人間生活を豊かで便利かつ快適にする工学の一翼を担っており、様々な分野において発展してきた。近年、工業技術の高度化および複雑化に伴い電子電気・情報工学分野においては特に高付加価値新素材の開発が推進され、更に5GやIoTを支える高度な情報通信技術および情報制御技術が要求されている。さらに、エネルギー問題や環境問題を工学的に解決するために新しい発想に基づいた電子電気・情報技術の開発の要請も極めて高くなっている。本専攻は、このような社会的要請に応える教育・研究を展開している。

### 【教育研究の目的】

教育研究の目的は、電子電気・情報工学および知能工学・宇宙工学も含む学際的な分野の基礎及び専門知識を有し、技術的な課題を積極的に推進する研究開発能力を養成し、社会に貢献することである。

### 【人材養成の目的】

電子電気・情報工学専攻における人材養成の目的は、電子電気・情報技術の高度な専門知識を修得し、将来の進展が予測される産業の高度化・システム化に対応できる統合化能力を持つ技術者を養成するとともに、地域産業の高度化と発展に資する人材を養成することである。

### 【部門構成】

本専攻は電子デバイス工学、通信メディア工学、エネルギーシステム工学、および情報システム工学の4部門により構成されている。

#### (a) 電子デバイス工学（半導体工学、機能性デバイス工学、光エレクトロニクス）

本部門は、固体内、界面および表面で生じる電子現象を扱い、固体デバイスの特性、設計法について総合的に修得させることを目的としている。

#### (b) 通信メディア工学（マイクロ波、量子エレクトロニクス、ネットワーク工学）

本部門は、電子が量子的に振舞う結果生じる現象と、通信、ネットワークを中心に扱い、それらの技術を総合的に修得させることを目的としている。

#### (c) エネルギーシステム工学（プラズマ工学、エネルギー変換、エネルギーシステム）

本部門は、放電現象・プラズマに関する理論と解析法、それらに基づく応用技術、およびエネルギーの発生、変換、システムについて、総合的に修得させることを目的としている。

(d) 情報システム工学（情報制御、情報システム工学、マルチメディア工学）

本部門は、情報制御をシステムとして捉えるとともに、マルチメディア、知能情報工学について総合的に修得させることを目的としている。

以上の4部門は、新素材の高付加価値化、情報通信技術および制御技術の高度化、およびエネルギー・環境問題などに対応できるように、高度な技術を習得し得る研究と教育内容を備えている。また、電子電気・情報工学の発展には、高度な工学的基礎知識が不可欠であるため、博士前期課程においては、専門基盤科目を設け、上記の4部門に関連した応用数学、応用物理学、応用化学の最新知識を履修できるようにカリキュラムが組まれている。

**【研究テーマ】**

電子デバイス工学部門

- ・ リモートセンシング用センサと衛星画像解析に関する研究
- ・ 次世代型ディスプレイ用有機 EL（電界発光）素子の開発研究
- ・ 新規物性を応用した光電子デバイスに関する研究
- ・ 表面・界面と環境・エネルギー分野に資する機能性薄膜に関する研究
- ・ 地球環境に優しいバイオプラスチックの電子デバイスへの応用に関する研究

通信メディア工学部門

- ・ 非健常者に優しいヒューマン・インターフェイスの研究
- ・ 半導体微小冷陰極の高機能化およびその応用に関する研究
- ・ 分散メモリ型並列計算機の通信性能向上に関する研究
- ・ 力覚デバイスを用いたロボットアームによる遠隔手術システムの研究
- ・ 電磁波応用機器の研究

エネルギーシステム工学部門

- ・ 新しい環境発電によるエネルギー供給システムの研究
- ・ 高効率電力変換システムに関する研究
- ・ パラメトリックモータの動作解析と高性能化、およびその応用に関する研究
- ・ 風力発電のモデリングとシミュレーションに関する研究
- ・ 風力発電における賦存量推定と可視化に関する研究
- ・ 地域資源と人工知能手法を活用する新しい電力ネットワークシステムに関する研究

情報システム工学部門

- ・ 知能ロボット制御用並列 VLSI プロセッサの構成法に関する研究
- ・ 不規則入力システムの制御に関する研究
- ・ Web 技術の応用に関する研究
- ・ カオス通信システムの構築法に関する研究
- ・ コンピュータグラフィックスによる映像表現技術の研究
- ・ 部分多様体論の情報幾何学への応用に関する研究
- ・ デジタル信号処理におけるデジタルフィルタの高精度化・省電力化に関する研究
- ・ 機械学習・データマイニングの手法、擬等角写像の数値的構成手法の研究

### 3. 社会基盤工学専攻

#### 【概要】

本専攻は、工学部の土木建築工学科、および地域産業総合研究所（構造工学）を基盤に設置される。社会的基盤工学は人間の生活向上に不可欠な社会的基盤施設の建設整備に関する分野であり、市民工学とも呼ばれるべき立場で大きく発展を遂げてきた。人間の価値観は多様であり、多面的な視点をもって人間の考え方を理解し、土木技術の発展に寄与することが要請されている。近年の社会の発展に伴って公共構造物の大型化、機械化が進み、より専門的で高度な建設技術や情報化社会に対応した土木技術が要請されている。また、一方では、環境問題や各種災害等の問題を工学的に解決するために、斬新な発想に基づいた土木技術の開発の要請もきわめて高くなっている。本専攻ではこのような社会的要請に応える教育・研究を展開する。

#### 【教育研究の目的】

社会基盤工学専攻は、多面的視点を持った技術者として人間生活向上に不可欠な社会的基盤施設の建設整備、災害予測・復旧および環境保全に貢献し得る基礎力と高度な専門的知識および基礎的研究開発能力を養成することを教育・研究の目的とする。

#### 【人材養成の目的】

社会基盤工学専攻は、世界人類の価値観の多様性を理解し、多面的な視点を持って土木技術の発展に寄与する技術者・研究者を育成すること、社会の高度化に対応した高度な専門技術および情報化社会に対応した土木技術を持つ技術者・研究者を育成すること、ならびに、環境問題や各種災害等の問題を解決するための基礎力と高度な専門的知識とその応用展開能力を持つ技術者・研究者を育成することを人材養成の目的とする。

#### 【部門構成】

本専攻は構造材料工学、地盤防災工学、水工・寒地工学および環境工学の4部門により構成されている。

##### (a) 構造材料工学（構造工学、建設材料、コンクリート工学）

本部門は、新素材や複合材料も含めた各種建設材料の特性と設計法およびこれらを使用した構造物の最新の解析・設計法について総合的に修得させるためのものである。

##### (b) 地盤防災工学（地盤工学、地盤材料、ジオシンセティックス、地盤災害と防災）

本部門は、地盤工学と基礎工学の基礎理論に基づいて地震や地盤の防災について総合的に修得させるためのものである。

##### (c) 水工・寒地工学（河川・海岸工学、水文学、寒地工学、雪氷工学）

本部門は、河川工学、海岸工学、水文学、寒地工学および雪氷工学に関する最新の知識を修得させ、さらには災害の予測・復旧や水辺空間の環境保全等の工学的応用について修得させるためのものである。

(d) 環境工学（地球環境問題、水環境工学、水処理工学、廃棄物処理処分、地域計画学）

本部門は、地球環境問題から水環境や廃棄物処理処分までの環境問題に関して、その現状や課題を工学的な視点で捉え、環境の制御と保全のための工学的な手法を総合的に修得させ、また、土木事業計画の効果予測と達成度評価を行う調査・分析手法について修得させるためのものである。

以上の4部門は、多様化・大型化・情報化の社会革新に対応し、かつわが国および世界の社会基盤整備と環境保全に貢献し得る高度な水準の土木技術を追求する教育・研究を可能とするものとなっている。さらに、社会基盤工学および環境工学の発展には高度な工学的基礎知識が不可欠であり、博士前期課程においては専門基盤科目を設け、4部門に関連した応用数学、応用物理学、応用化学の最新知識を必要に応じて履修する。

### 【研究テーマ】

#### 構造材料工学

- ・コンクリート混和材料の有効利用およびコンクリート用新材料に関する研究
- ・コンクリートの高寿命化に関する研究
- ・コンクリートの凍害および耐久性判定・照査手法に関する研究
- ・鋼構造およびコンクリート構造の最適設計手法と設計システムに関する研究
- ・橋梁の津波対策に関する研究

#### 地盤防災工学

- ・地盤改良工法の合理的な適用方法に関する研究
- ・北東北の火山灰土の特性と安定処理・補強、地盤環境、および凍土に関する研究
- ・ジオシンセティックスの適用性に関する研究
- ・各種構造物の基礎の設計手法の体系化に関する研究
- ・北東北の地震災害、地震波動の特性および地盤と構造物の相互作用に関する研究

#### 水工・寒地工学

- ・波浪の変形および予測に関する研究
- ・海浜流の発生・発達、および海浜変形・海岸過程に関する研究
- ・波浪制御構造物の研究
- ・結氷海域における津波と構造物の相互作用に関する研究
- ・海岸海洋構造物の劣化機構と対策に関する研究

#### 環境工学

- ・用水・廃水の物理化学的処理ならびに生物学的処理に関する研究
- ・膜ろ過法の機構および膜ろ過浄水処理システムに関する研究
- ・水環境、地盤環境、廃棄物、建設工事における環境保全策に関する研究
- ・土木事業計画の効果予測、達成度評価、分析方法に関する研究

博士前期課程の教育課程

機械・生物化学工学専攻博士前期課程

部門	授業科目	単位数	週時間数				担当教員				
			1年		2年						
			前	後	前	後					
移動現象工学	移動現象工学特論	2	2				教授	博士(工学)	折田	久幸	
	熱工学特論	2		2			教授	工学博士	大黒	正敏	
	流体工学特論	2	2				教授	博士(工学)	工藤	祐嗣	
	流体システム工学特論	2		2			教授	工学博士	大黒	正敏	
	特別演習	6	3	3	3	3	教授	工学博士	工藤	祐嗣	
	特別研究	8	3	3	9	9	教授	工学博士	大黒	正敏	
計測システム工学	計測自動制御工学特論	2	2				教授	博士(工学)	太田	勝	
	メカノプティクス特論	2		2			教授	博士(工学)	太田	勝	
	システム計測工学特論	2	2				教授	博士(工学)	杉本	振一郎	
	数値情報工学特論	2	2				教授	博士(工学)	杉本	振一郎	
	特別演習	6	3	3	3	3	教授	博士(工学)	太田	勝	
	特別研究	8	3	3	9	9	教授	博士(工学)	杉本	振一郎	
材料加工工学	材料力学特論	2	2				教授	博士(工学)	鈴木	寛	
	新素材工学特論	2	2				教授	博士(工学)	鈴木	寛	
	材料プロセス工学特論	2		2			教授	博士(工学)	佐藤	学	
	精密加工工学特論	2		2			教授	博士(工学)	佐藤	学	
	特別演習	6	3	3	3	3	教授	博士(工学)	鈴木	寛	
	特別研究	8	3	3	9	9	教授	博士(工学)	鈴木	寛	
物質変換工学	物質変換工学特論	2		2			教授	博士(理学)	田中	義幸	
	変換プロセス工学特論	2	2				教授	博士(水産学)	藤田	敏明	
	機能性物質工学特論	2		2			教授	博士(工学)	高橋	晋	
	表面物性制御工学特論	2		2			教授	博士(農学)	星野	保	
	特別演習	6	3	3	3	3	教授	博士(理学)	鮎川	恵理	
	特別研究	教授	博士(工学)	小林	正樹						
		教授	博士(工学)	鶴田	猛彦						
		教授	博士(農学)	星野	保						
		教授	博士(工学)	小林	正樹						
		教授	博士(理学)	田中	義幸						
		教授	博士(水産学)	藤田	敏明						
教授		博士(工学)	高橋	晋							
教授		博士(理学)	鮎川	恵理							
科目基盤	応用数学特論(A)	2	2				教授	博士(理学)	笹原	徹	
	応用物理学特論(A)	2		2			教授	博士(工学)	川本	清彦	
	応用化学特論(A)	2	2				教授	博士(工学)	鶴田	猛彦	

電子電気・情報工学専攻博士前期課程

部 門	授 業 科 目	単 位 数	週時間数				担 当 教 員				
			1 年		2 年						
			前	後	前	後					
電 子 デ バ イ ス 工 学	半導体工学特論	2	2				教 授 博 士 (工学)	川 本	清 武		
	磁性体工学特論	2		2		教 授 博 士 (工学)	石 山	木 崇 徳			
	誘電体工学特論	2	2			教 授 博 士 (工学)	佐 々 木 崇 徳	義 武			
	光エレクトロニクス工学特論	2		2		教 授 博 士 (工学)	信 山	義 武			
	特別演習	6	3	3	3	3	教 授 博 士 (工学)	石 山	清 武		
							教 授 博 士 (工学)	川 本	清 武		
	特別研究	8	3	3	9	9	教 授 博 士 (工学)	石 山	木 崇 徳		
						教 授 博 士 (工学)	川 本	清 武			
						教 授 博 士 (工学)	石 山	木 崇 徳			
						教 授 博 士 (工学)	信 山	克 義			
						教 授 博 士 (工学)	佐 々 木 崇 徳	清 武			
						教 授 博 士 (工学)	石 山	武 義			
						教 授 博 士 (工学)	信 山	克 義			
						教 授 博 士 (工学)	佐 々 木 崇 徳	清 武			
通 信 メ デ ィ ア 工 学	量子エレクトロニクス特論	2	2				教 授 博 士 (工学)	嶋 脇	秀 隆		
	マイクロ波工学特論	2		2			教 授 博 士 (工学)	柴 田	幸 司		
	計測システム工学特論	2	2				准 教 授 博 士 (工学)	神 原	利 彦		
	ネットワーク工学特論	2		2			准 教 授 博 士 (理学)	山 口	広 行		
	特別演習	6	3	3	3	3	教 授 博 士 (工学)	嶋 脇	秀 隆		
							教 授 博 士 (情報科学)	藤 岡	与 周		
	特別研究	8	3	3	9	9	教 授 博 士 (工学)	柴 田	幸 司		
						教 授 博 士 (工学)	嶋 脇	秀 隆			
						教 授 博 士 (情報科学)	藤 岡	与 周			
						教 授 博 士 (工学)	柴 田	幸 司			
シ ス テ ム 工 学	気体電子工学特論	2	2				教 授 博 士 (工学)	石 山	俊 彦		
	プラズマ工学特論	2		2			准 教 授 博 士 (工学)	花 田	一 磨		
	エネルギー変換工学特論	2	2				教 授 工 学 博 士	坂 本	禎 智		
							教 授 博 士 (工学)	石 山	俊 彦		
	エネルギーシステム工学特論	2		2			教 授 博 士 (工学)	花 田	一 磨		
	特別演習	6	3	3	3	3	教 授 工 学 博 士	小 玉	成 人		
	特別研究	8	3	3	9	9	教 授 工 学 博 士	坂 本	禎 智		
						教 授 工 学 博 士	小 玉	成 人			
						教 授 工 学 博 士	坂 本	禎 智			
						教 授 工 学 博 士	小 玉	成 人			
情 報 シ ス テ ム 工 学	マルチメディア工学特論	2	2				教 授 博 士 (工学)	伊 藤	智 也		
	知能情報学特論	2		2			教 授 博 士 (理学)	小 久 保	温 宏		
							准 教 授 博 士 (情報科学)	島 内	宏 和		
	制御システム工学特論	2		2			准 教 授 博 士 (工学)	清 水	能 理		
	情報システム工学特論	2	2				教 授 博 士 (情報科学)	藤 岡	与 周		
	特別演習	6	3	3	3	3	准 教 授 博 士 (工学)	越 田	俊 介		
							教 授 博 士 (工学)	石 山	俊 彦		
							教 授 博 士 (理学)	小 久 保	温 宏		
							教 授 博 士 (理学)	笹 原	徹 也		
	特別研究	8	3	3	9	9	教 授 博 士 (工学)	伊 藤	智 也		
						准 教 授 博 士 (工学)	越 田	俊 介			
						准 教 授 博 士 (情報科学)	島 内	宏 和			
						教 授 博 士 (工学)	石 山	俊 彦			
						教 授 博 士 (理学)	小 久 保	温 宏			
						教 授 博 士 (理学)	笹 原	徹 也			
						教 授 博 士 (工学)	伊 藤	智 也			
						准 教 授 博 士 (工学)	越 田	俊 介			
						准 教 授 博 士 (情報科学)	島 内	宏 和			
科 目 基 盤	応用数学特論 (B)	2	2				教 授 博 士 (理学)	笹 原	徹 也		
	応用物理学特論 (B)	2		2			教 授 博 士 (工学)	川 本	清 武		
	応用化学特論 (B)	2	2				教 授 博 士 (工学)	鶴 田	猛 彦		

社会基盤工学専攻博士前期課程

部門	授業科目	単位数	週時間数				担当教員
			1年		2年		
			前	後	前	後	
構造材料工学	建設材料学特論	2	2				教授 博士(工学) 迫井 裕樹
	維持管理工学特論	2	2				教授 博士(デザイン学) 黒坂 貴裕
	コンクリート構造工学特論	2		2			教授 博士(工学) 阿波 稔
	鋼構造工学特論	2		2			教授 博士(工学) 高瀬 慎介
	特別演習	6	3	3	3	3	教授 博士(工学) 阿波 稔
							教授 博士(デザイン学) 黒坂 貴裕
							教授 博士(工学) 高瀬 慎介
							教授 博士(工学) 迫井 裕樹
	特別研究	8	3	3	9	9	教授 博士(工学) 阿波 稔
							教授 博士(デザイン学) 黒坂 貴裕
							教授 博士(工学) 高瀬 慎介
							教授 博士(工学) 迫井 裕樹
地盤防災工学	土質力学特論	2	2				教授 博士(工学) 金子 賢治
	土構造工学特論	2		2			教授 博士(工学) 金子 賢治
	地盤防災工学特論	2		2			教授 博士(工学) 金子 賢治
	地震耐震工学特論	2	2				教授 博士(工学) 金子 賢治
	特別演習	6	3	3	3	3	教授 博士(工学) 金子 賢治
	特別研究	8	3	3	9	9	教授 博士(工学) 金子 賢治
水工・寒地工学	水工学特論Ⅰ	2	2				教授 博士(工学) 加藤 雅也
	水工学特論Ⅱ	2		2			教授 博士(工学) 竹内 貴弘
	寒地工学特論	2	2				教授 博士(工学) 竹内 貴弘
	特別演習	6	3	3	3	3	教授 博士(工学) 竹内 貴弘
							教授 博士(工学) 加藤 雅也
	特別研究	8	3	3	9	9	教授 博士(工学) 竹内 貴弘
						教授 博士(工学) 加藤 雅也	
環境工学	都市・地域計画特論	2	2				教授 博士(工学) 宮腰 直幸
	環境工学特論Ⅰ	2	2				准教授 博士(工学) 安部 信行
	環境工学特論Ⅱ	2		2			教授 博士(工学) 鈴木 拓也
	環境衛生工学特論	2		2			教授 博士(工学) 鈴木 拓也
	特別演習	6	3	3	3	3	教授 博士(工学) 鈴木 拓也
							准教授 博士(工学) 安部 信行
	特別研究	8	3	3	9	9	教授 博士(工学) 鈴木 拓也
						准教授 博士(工学) 安部 信行	
基盤科目	応用数学特論 (C)	2	2				教授 博士(理学) 笹原 徹
	応用物理学特論 (C)	2		2			教授 博士(工学) 川本 清
	応用化学特論 (C)	2	2				教授 博士(工学) 鶴田 猛彦

### 博士後期課程の教育課程

#### 機械・生物化学工学専攻博士後期課程

研究部門	研究分野	担当教員
移動現象工学	移動現象工学特別研究	教授 工学博士 大黒 正敏
		教授 博士(工学) 折田 久幸
計測システム工学	計測システム工学特別研究	教授 博士(工学) 杉本 振一郎
材料加工学	材料加工学特別研究	教授 博士(工学) 鈴木 寛
		教授 博士(工学) 佐藤 学
物質変換工学	物質変換工学特別研究	教授 博士(工学) 鶴田 猛彦
		教授 博士(農学) 星野 保
		教授 博士(工学) 小林 正樹
		教授 博士(理学) 田中 義幸
		教授 博士(水産学) 藤田 敏明

#### 電子電気・情報工学専攻博士後期課程

研究部門	研究分野	担当教員
電子デバイス工学	電子デバイス工学特別研究	教授 博士(工学) 石山 武
		教授 博士(工学) 信山 克義
通信メディア工学	通信メディア工学特別研究	教授 博士(工学) 嶋脇 秀隆
		教授 博士(工学) 柴田 幸司
エネルギーシステム工学	エネルギーシステム工学特別研究	教授 工学博士 坂本 禎智
情報システム工学	情報システム工学特別研究	教授 博士(工学) 石山 俊彦

#### 社会基盤工学専攻博士後期課程

研究部門	研究分野	担当教員
構造材料工学	構造材料工学特別研究	教授 博士(工学) 阿波 稔
		教授 博士(工学) 高瀬 慎介
		教授 博士(工学) 迫井 裕樹
地盤防災工学	地盤防災工学特別研究	教授 博士(工学) 金子 賢治
水工・寒地工学	水工・寒地工学特別研究	教授 博士(工学) 竹内 貴弘
		教授 博士(工学) 加藤 雅也
環境工学	環境工学特別研究	

令和7年度八戸工業大学大学院工学研究科入学志願票

受験番号	※		
フリガナ 氏名		生年月日 性別	昭和 平成 年 月 日 (生) 男 ・ 女
本籍	(外国籍の者は国名を記入) 都道府県	課程 (○で囲む)	博士前期課程 博士後期課程
選抜種別 (○で囲む)	一般選抜 ※括弧内の科目を1科目選択する場合は右の□にチェックを入れる □ 学内推薦進学制度 ・ 推薦型選抜 ・ 社会人特別選抜 ・ 外国人特別選抜		
志願専攻	第1希望部門	第2希望部門	
	希望担当教員名 ( )	希望担当教員名 ( )	
卒業論文名			
修士論文名			
フリガナ			
本人が諸通知 を受ける場所	□□□ - □□□□ 都道府県	(電話 - - )	
保護者 (保証人)	フリガナ 氏名	電話	- -
	フリガナ 現住所	□□□ - □□□□ 都道府県	
学歴	S H 年 月 ~ H 年 月 R	S R	立 高等学校 科 卒業 卒業 卒業 見込
	S H 年 月 ~ H 年 月 R	S R	大学 学部 学科 専攻 専攻 見込
職歴	S H 年 月 ~ H 年 月 R	S R	大学大学院 研究科 専攻 専攻 見込
	S H 年 月 ~ H 年 月 R	S R	

- 注) 1. 職歴がない場合は「なし」と明記すること。  
 2. 課程、選抜種別、学歴、職歴欄は該当するものを○印で囲むこと。  
 3. ※欄は、記入しないこと。

◆志願票に記載された情報、その他出願に際して提出された情報は、入学者選抜および合格者への入学手続に関する業務以外の用途には使用しません。

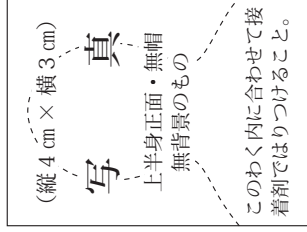


令和7年度

八戸工業大学大学院工学研究科

写真票

受験番号	※
フリガナ	
氏名	
生年月日	昭和 平成
志望課程 (○で囲む)	博士前期・博士後期
志望専攻	工学専攻



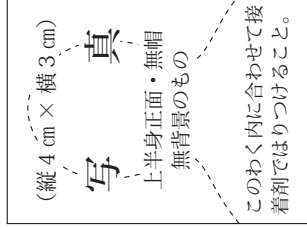
- (注) 1. ※印欄は記入不要  
2. 受験票の写真と同一のものを貼付のこと

令和7年度

八戸工業大学大学院工学研究科

受験票

受験番号	※
フリガナ	
氏名	
生年月日	昭和 平成
志望課程 (○で囲む)	博士前期・博士後期
志望専攻	工学専攻



- (注) 1. ※印欄は記入不要  
2. 写真票の写真と同一のものを貼付のこと  
3. 試験の際は、試験監督者の見えやすい机上におくこと  
4. 入学手続を完了するまで保持すること

令和7年度

八戸工業大学大学院工学研究科

会計原簿

受験番号	※
フリガナ	
氏名	
志望課程 (○で囲む)	博士前期・博士後期
志望専攻	工学専攻

(注) 1. ※印欄は記入不要





受験番号	※記入不要
------	-------

## 推薦書

八戸工業大学大学院工学研究科長 殿

大学名

役職・氏名

㊦

下記の者は、八戸工業大学大学院工学研究科博士前期課程において学ぶにふさわしい者として推薦します。

志願専攻 (○で囲む)	機械・生物化学工学専攻	電子電気・情報工学専攻	社会基盤工学専攻
氏名			

推薦理由
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----

※ 記入上の注意

- (1) 受験番号は記入しないでください。
- (2) 推薦書は厳封のうえ出願書類と一緒に提出してください。



